

研究パネル

三原市障害児通園デイサービスホームと大学との連携の実践報告

林 優子*1 土田 玲子*1 山本 映子*2 細川 淳嗣*3 山本 紀子*4

*1 県立広島大学保健福祉学部作業療法学科

*2 県立広島大学保健福祉学部看護学科

*3 県立広島大学保健福祉学部コミュニケーション障害学科

*4 三原市障害児通園デイサービスホームぼぼら

抄 録

発達に遅れや困難を持つ子どもとその親に対し本学診療所では個別の評価やリハビリテーション支援を、三原市障害児デイサービスホーム（デイサービス）では集団による継続的な日中活動の支援を行っている。平成17年9月より、それぞれの特徴を生かし相互の資源を利用しながら、総合的な親子支援をする目的で、合同のケース会議、デイサービスに出向いてのコンサルテーションや親支援などを実施したので、その実践を報告する。

連携の結果①発達評価に基づいた支援計画の作成が可能になった。②それぞれの場面での子どもの情報を共有することにより統一した対応ができるようになった。③保育場面の関りについて発達促進という観点からの意味づけが可能になった。④大学がデイサービスを介し間接的に利用児が平行して通園する幼稚園や保育所と連携ができた。⑤子どものキーパーソンである親に対して、心の安定の得られる場や子どもとの関わり方への助言が得られる場を提供することで家庭でのよい関わりにつながった。などの変化があった。

今後も利用児とその親のニーズの多様化への対応や、他機関との役割分担を図るなどの課題を解決しながら、さらに連携し子どもと家族を支援していきたい。

キーワード：児童デイサービス、発達支援、他機関連携、情報共有